にぎやかそ地方創生便り Vol.49

「地域おこし協力隊」ってなんだろう？

地域おこし協力隊は、移住者の定住・定着を図る総務省の取り組みです。自治体から任命された協力隊員は、最長３年まで延長できる任期中に、農業・漁業への従事、地域の魅力発信、お祭りやイベントの運営など、様々な地域協力活動を担います。現在、全国では約 5,500 人を超える地域おこし協力隊が各地で活躍していて、美波町では５名の協力隊員が町内の各受け入れ団体で活動中です。今回の「にぎやかそ地方創生便り」では、協力隊員の方々にインタビューを実施！「協力隊員って何をしているの？」を深掘りしていきます。

Interview Question

Q1。美波町の地域おこし協力隊に応募した理由は？
Q2。協力隊員として何をしているの？
Q3。これから取り組んでいきたいことは？

大石 真さん（美波町観光協会）

A1。 町のゆるキャラ「かめたろう」が出演していたラジオ放送がきっかけで、自然豊かでウミガメや伊勢海老など、魅力がたくさんある美波町に興味を持ちました。他県の事例から、協力隊の仕事に前から興味があったこともあり、美波町の協力隊に応募することにしました。

A2。 観光案内所での業務がメインです。観光協会が運営するレンタルサイクルなどの受付や PR なども担当しています。鉄道を使った誘客への取り組みもはじめていて、日和佐駅の「駅ノート」の企画・運営にも力を入れています。

A3。 現在行っている観光に関わる取り組みをもっと広げていきたいと思っています。協力隊の任期終了後は自分でオーガニック食材のお店を開きたいと考えているので、その準備なんかもしていきたいですね。

渡辺 隼斗さん（道の駅「日和佐」）

A1。 前職は、市役所の農業関係の部署で働いていて、その頃から「もっと現場で働きたい」という想いが強くありました。販売士の資格を持っていて小売業にも興味があったので、生産者と消費者をつなぐ道の駅での協力隊に応募することに。女優の浜辺美波さんの大ファンなので、美波町の名前に魅かれたのも理由の一つです（笑）。

A2。 道の駅「日和佐」の運営業務を行っています。令和２年９月に着任したばかりで、まだ覚えることばかりですが、地域の方々に支えられながら楽しく働いています。

A3。 「新しいことができるワクワクする町」というのが美波町の第一印象。自分も町に新しい変化を生み出していけるような存在になりたいです。あとは、農業を通じて町の様々な人との「つながりづくり」などもしていければと思います。

人口が減ってもにぎやかな町・美波町をつくるため、
日々頑張る人や団体、取り組みなど、情報提供をお待ちしています！
▶役場政策推進課（☎ 77-3616）もしくは ▶ QR コードの応募フォームからご連絡ください。